



田んぼでビーチバレーを楽しむ大津耕太さん（手前）。ファイナルセットが最後のコートで、この瞬間は「明る」農村の風景だ

草履の跡がまぶしい。歩く時は五月し旬の午後、阿蘇郡南郷村阿蘇。豊かな表情の田圃のそばに水が流れる。川のそばに水が流れる。川のそばに水が流れる。

若いからこそ農業
 熊本生まれの耕太さん、ドイト生まれの愛梨さん。二人は一九九九年（平成十一年）東京で学生結婚。二人は三年半留学、ドイト大学農学部に農業計画を専攻した。一日に一度も土を踏まない東京で、農村の発展や農政計画を考へることに疑問を感じた耕太さんは三年、阿蘇農政を専攻する。二年、阿蘇農政を専攻する。二年、阿蘇農政を専攻する。二年、阿蘇農政を専攻する。

02(オーツ)ファーム 大津 耕太さん(32)、愛梨さん(33) 夫妻

東京で学生結婚後に就農 仲間と目指す「百笑生活」



東京から来た会社員の友人（奥）と、近くの河原で採った桑の実で果実酒を作る耕太さん

このメンバー、安易に酒を飲ませ、あるものを手間で楽しむのがモットー。お付き合いがカクテルを兼ねた飲み会、シートをスクリーン代わりにしたパソコンで映画鑑賞、切ったり紙を使ったゲームの流行し。そんな遊びを、築百二十二年の広々とした雰囲気の大津家で、しょっちゅう開いている。

東京から来た会社員の友人（奥）と、近くの河原で採った桑の実で果実酒を作る耕太さん



築10年の大津家で、親子入り乱れた飲み会を閉く「阿蘇ランド」のメンバー。手前、耕太「明る」農村を持つのが耕太さん、右が愛梨さん

阿蘇にくらし 阿蘇をつくる
 —若き移住者たち—
 Design by masahito TAKITA

※くまにちコムでも掲載しています。アドレスは<http://www.kumanichi.com/>